

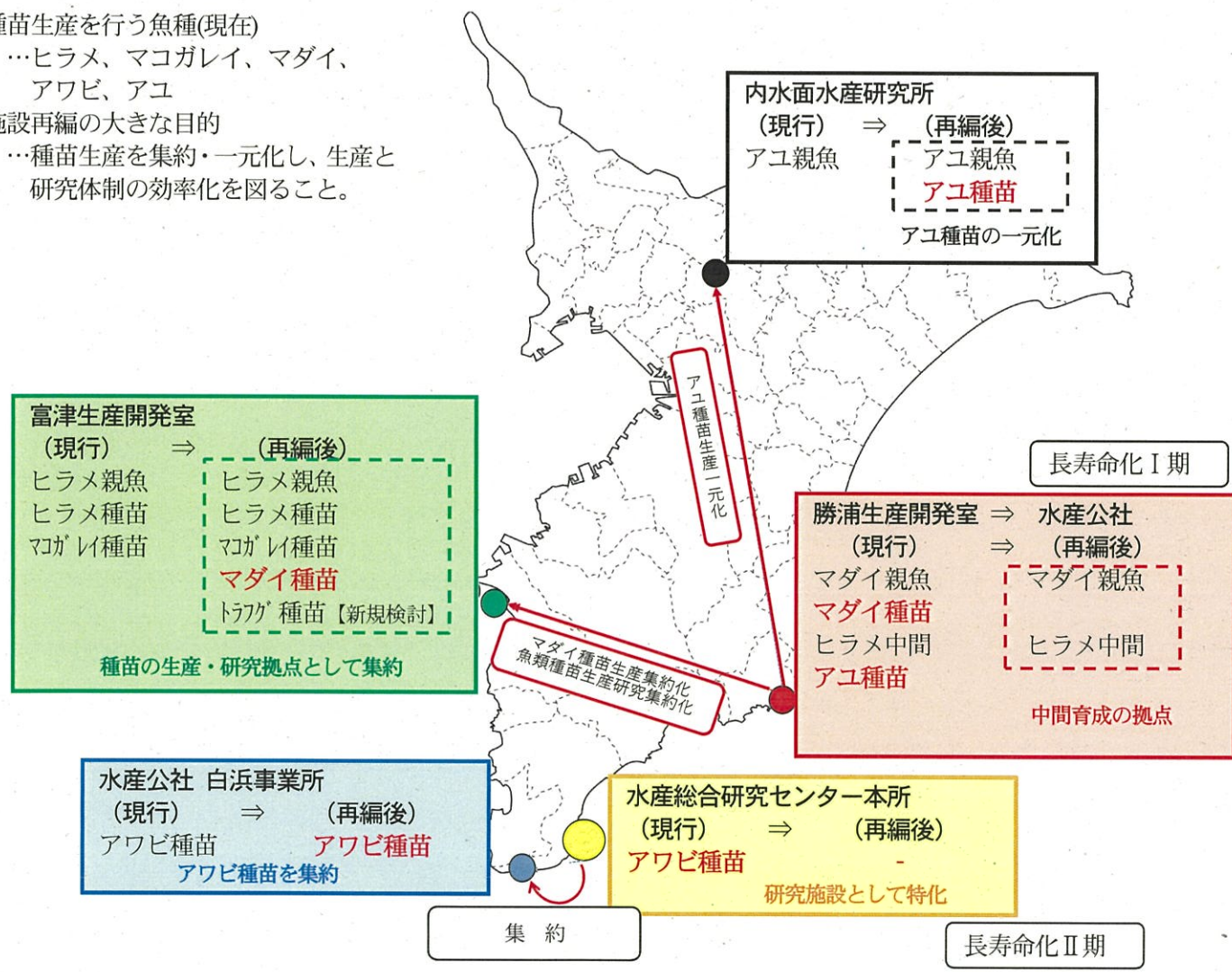
栽培漁業再編計画の策定について

1 概要

- 水産総合研究センターは、水産業が直面する重要な課題や施設の老朽化に的確に対応するため、研究体制や種苗生産等の機能強化に向けた方針を示した「基本構想」を平成30年11月に策定し、平成31年3月に、「基本構想」を実現させるための「施設再編整備計画」を公表した。
- これを受け、勝浦生産開発室が長寿命化整備計画（県有施設の長期整備計画）I期に位置付けられた。今後、施設整備を行うに際し、種苗生産の今後の方針とプラントのあり方を定める「栽培漁業再編計画」を策定する必要がある。

2 種苗生産施設の再編について（施設再編整備計画の方向性について）

- 種苗生産を行う魚種(現在)
 - …ヒラメ、マコガレイ、マダイ、アワビ、アユ
- 施設再編の大きな目的
 - …種苗生産を集約・一元化し、生産と研究体制の効率化を図ること。



3 今後策定検討する栽培漁業再編計画について

第8次栽培漁業基本計画を見据えた再編計画を今後策定する。(以下はイメージで、内容は今後調査等の上検討)

(1) 種苗生産の今後の方針

これまでの実績から放流効果が認められ、資源維持増大に貢献している魚種は、引き続き、漁業振興上の重要対象種として位置づけ、その効果が発揮されるよう目標数量、サイズ等を定めて推進する。また、漁業所得の向上が期待される新魚種は、放流効果を見込める規模で事業化を行う。

(2) プラントのあり方

基本構想で位置づけた種苗生産の在り方を踏まえ、施設の現況を調査し、その結果に基づいて再編整備後の将来図と整備に係る事業概算を算定する。

①施設の現状と課題を把握する調査

[項目] 現況調査・目視調査・ヒアリング調査・測量・地盤調査・土壌汚染調査・劣化調査などを行う。

②再編後の施設整備を決定するための調査

[項目] 施設配置計画図(再編後の将来予想図)、事業費の概算、事業効果の推定を行う。

③整備後の各施設を計画的に維持管理するための調査

[項目] 整備後も長期運用に向けた維持管理方針を検討し、工事種別の工法や概算費用を提示する。

参考：集約化に係る概略図

